

(参考:報告書の表紙と目次)

日本の気象業務の近代化と発展途上国のための知見・経験

(MODERNIZATION OF METEOROLOGICAL SERVICES IN JAPAN AND LESSONS FOR DEVELOPING COUNTRIES)

目次

概要

1. 日本の気象・気候業務
 - 1.1 日本の自然災害
 - 1.2 日本の気象業務の発展
 - 1.3 日本における国家気象機関の事業モデル
 - 1.4 日本の現在の気象サービス
 2. 日本の気象業務における制度の発展
 - 2.1 法的枠組
 - 2.2 国の災害対策における気象庁の役割と責務
 - 2.3 予算、定員及び人材育成・開発
 3. 日本の観測・予報システムとサービス提供の近代化
 - 3.1 気象庁の現業システムの近代化と業務改善
 - 3.2 早期警報業務と利用者インターフェース
 - 3.3 社会経済活動における気象・気候サービスの応用
 - 3.4 気象サービスの利活用と顧客満足度
 4. 官民連携の進展
 - 4.1 気象・気候サービスにおける官民連携の発展
 - 4.2 官民連携（PPP）への支援のための気象業務支援センターとそのサービス
 - 4.3 産業における気象データの流通量の拡大
 - 4.4 日本における民間気象サービス
 5. 国際計画・プロジェクトにおける経験
 - 5.1 静止気象衛星
 - 5.2 WMO 計画の下での気象庁の地域・世界センター
 - 5.3 研修プログラムと JICA 集団研修（気象コース）
 - 5.4 JICA プロジェクトの経験
 6. 国家気象機関の近代化に関する指針
 - 6.1 発展途上国へ向けた提言
 - 6.2 近代化プロジェクトの計画立案及び実施にかかわる提言
- 次の段階への提案に関する補足
- 結語
- 貢献頂いた関係者への謝辞
- 付録



報告書表紙：世界銀行のホームページより

(理事長)